

玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）地域説明会
（宇野中学校区） 会議録（概要）

■日 時 令和6年10月18日（金）19:00～21:30

■場 所 産業振興ビル

■出席者 柴田市長、多田教育長、小崎次長、琵琶教育総務課長、的場学校教育課長、清山教育総務課参事

■参加者 16名（保護者6名、地域10名）

1 開会

市長あいさつ、教育長あいさつ

2 説明

「玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）」の内容のうち、宇野中学校区に該当する部分を資料に沿って説明。

3 意見交換

参加者1：築港小と保育園に子どもがいますが、保護者の方の意見だったり反応も時々聞くことがありますので、共有させていただきますと、おおむね反対の声は聞かないのが印象的です。他の地域では反対の意見も多く聞いているという声であったりというも聞くことはありますが、いろんな意見の方がいらっしゃるのはもちろん、反対意見がある方もいらっしゃるとは思うんですけど、おおむねそのような意見は聞かない印象です。先生方に聞いても、あまりそのような声が学校に上がったことはないと聞いています。

小学校は築港小学校と宇野小学校が一緒になるということで、なくなる地域がもちろんあるんですけど、範囲もそこまで広くないからなのかと思いますし、交通の便であったり、商用施設も多く利便性も高い地域なので、そういった点からも小学校がなくなったからといって影響はないと考えている方が多いのではないかと思います。

細かい意見としては、築港小にいる保護者からは、築港にしてくれたらいいのにといい意見であったり、通学距離が伸びるのでバスを出してもらいたいという意見だとか、そういった声は聞かれます。

あとは、宇野小学校に統合するというので、築港に住んでいるという方については、田井小のほうが近いし、そちらに行きたい方もたくさんおられるのではないかと思いますので、実際今度小学校に入られる年長さんの方では、今後のことを考えて、入学前から田井小・宇野小を決めた方もいらっしゃると聞いています。小学校区の区切りがどこかとか、今後検討していくことになると思いますが、単に築港と宇野を合体というわけではなく、校区の区切りというのをどこにするかというのは意見としていったほうがいいのではと思います。

事務局：校区については他の地区でもそのような意見でていますので、そこについては検討させていただきたいと思います。

参加者2：建物について、再編の後に建物の修理を行われるのか、配置が決まる前に受け入れ先の学校が決まるのか、そういった計画があるのかと思ってお聞きしたいです。

事務局：現時点で具体的にこうするというのはまだ決まてはいないのですが、たとえばクラス数が増えるということで、ある程度教室等を整備しなくてはならない場合はそれにあわせて整えていくということはあります。それ以外の建物全体の修理については今後の修繕計画の中で決めていきますので、今の時点ではお答えすることができません。

参加者 3 : 小学校の再編についてですが、将来的に田井小学校の児童が減少した場合、田井も含めて築港・宇野・田井で統合とあるんですけども、その際はどちらの小学校になるのでしょうか。宇野でしょうか。それとも田井でしょうか。あるいは子どもさんの交通の便を考えるとすれば、中央である築港小学校を今回のこして置いて、将来的に田井が含まれても中心に近いところで小学校を築港小というお考えはありませんでしょうか。

事務局 : 田井小学校につきましては、今回の計画では現状維持ということにさせていただいております。田井小学校の児童数が減少して小規模化が進んだ後には、改めて中心地域の再編について検討していく必要があると思いますので、現時点でどういう方向かをお答えすることはできません。

参加者 4 : 宇野中学校の場合は、日比・二日比、玉原・玉、そこらの学校の子どもたちが通ってくるわけで、そんな遠いところから宇野中までとは、バスを使うとか、難点があるかと思いますが、男の子なんかはバスが嫌で自転車通学も多かったりすると思うのですが、そういった場合中学校は部活がありますよね。部活に入って一生懸命汗を流して運動したり、音楽とかいろいろあると思いますが、その中で帰りが遅くなったら、もうバスの時間があるとか、送れたら親が迎えに来るとか、いろいろな意見も出てくると思うし、これから友達といろんなことを話しながら勉強したり部活したり、すごい狭まれている気もします。これから一番関係のある幼稚園や保育園とか、そういう保護者の方にもっと真剣に説明しないといざこれが 4 年くらい先に始まったときに、こんなことだったのか、いろんな問題が出てくると思うんです。幼稚園保育園の親御さん、働いているのでなかなか夜出てくることも大変だし、市の方が出て行って参観日などがあつたときにこういう話をしてあげるとか、一番関心のある保護者の方にもっと丁寧に説明していかないといけないのかなと思います。

これだけのことをするにはすごい予算がいるのではないかなと思うのですが、日比中が日比小になると、体格に合わせてトイレも変えなくてはいけなかったりもちろんプールもないからプールも作らないといけない、バスも出さないといけない、いろいろな面ですごいお金を使わないといけないと思うのですが、予算はどうなっているのかというのが聞きたい。

事務局 : まずは部活動の話をしていただきました。確かに遠くなることで部活動が出来る時間も少なくなるのではないかなというのがあります。現状、宇野中でいえば、玉中学校や日比中学校のほうから、部活動がやりたいからと自転車で宇野中まで通われてる方もおられます。校長先生とも話しましたが、部活動の時間は決まっているので、しっかりとしたうえで通われてると聞いておりますので、ご安心いただけるかと思います。もちろん自転車やバスで通う方もおられるので安全安心というところはしっかりと考えていく必要があるのですが、再編準備委員会の中でしっかり保護者や学校とも踏まえて話し合いながらやっていけたらと考えています。

確かに予算のこと、バスを走らせるのにも 1 台あたり 1,000 万かかるかとございます。市としては、路線バス、シータク、シーバスとか、一番いい方法を考えながら、やっていきたいと思っています。日比中学校を改修するところも、もちろん費用はかかりますが、進めて行くに当たって、当然お金のかかることなので、しっかり予算を確保しながらやっていく必要があります。学校を再編するなかの一つとしては、老朽化した建物に今後かけていく費用は何十億となり、その部分は減ってきますので、トータルで見ると、はっきりといった数字はありませんが、教育の予算の中でやっていけるかなというところで考えております。

参加者 5 : 適正規模、小学校の 2 ~ 3 学級というのが適正規模だということに玉野市が目指したその辺りの理由がよくわからないのですが、確かに今小規模校が増えているのはわかっています。

ただ、小規模校が必ずしもリスクばかりで良いことがないというのはそうではなく、いろいろな理由で不登校になっている子どもが玉野市になんと多いことかと思っていて、その子たちが規模が大きくなったからといって学校に行くことが出来るのかということ、規模は大きくなりました、知らない人はたくさんいます、そして歩く距離もとても遠

いです。もう絶対行かなくなりますよね。それをとても危惧しております。

宇野中学区は幸い徒歩で通える距離なので関心あまりないです。でも、子どもの主体的学びというのが、確かに多様な子どもが集まると対話は確かに広がるかもしれませんが、人数が増えることのデメリットも大きいのではないかと危惧しています。欧米の教育は12～13人から24人くらいが1クラスで、その中で自分の考えをディスカッションして多様に学ぶことが出来ています。どうして人数が増えたら多様な・主体的な学びが出来るのか、少なければ出来ないのか、というのが理解できません。逆行しているのではないですか。個に応じた学習は一人一人に対応して丁寧に学習することで、一人一人が輝くと私は思っています。今までそうやって教育してきました。40人いる教室で、お客さんになっている子どもを増やすのは考えられません。

だから、そうならないためにどうしようとしているのかを説明してください。

特に先ほど玉野市の教育の質を向上させるとおっしゃいましたが、どうやって教育の質を向上させるのか。教員の配置にしても、35人のクラスに教員が一人の配置と20人のクラスに一人の配置では、教育の質が向上しますか。低下しますか。小学校が減れば配置される教員が減ります。全体的な教員の数が減ります。その減った教員がどうやって自分たちで研修しながら教育の質を向上させることができますか。とても心配ですけど、それを説明していただきたいと思います。

それで、これからの児童数の減少ですが、それは市の方が何も対策しなければ、児童数も人口も減るに決まっています。それでいいのですか。せっかく宇野学区は外国の方もたくさん来られてグローバルになってきています。新しいお店もたくさん増えています。若い人がうれしいことです。瀬戸芸も香川県で開催され、玉野市もそれに便乗できることがたくさんあるのではないかと前から思ってたのですが、田井の港の方にも、まだ企業誘致できる場所がたくさんあるのかどうかはわかりませんが、ただ減るのを見てだけでなく、何か人を増やす取り組みというのを市として何も考えてないのかと、だからこういうふうにとんどん減っていく。それを指をくわえて見てだけなのかと残念に思います。そのあたりも何か対策はないのか考えていただきたいと思います。

減ってしまうから小学校減らそう、中学校減らそうと、子どももかわいそうですし、保護者もそんなことを前提に家を買って建てているわけではないので、気の毒です。

特に、日比小学校を日比中学校にするなんてもってのほかで、玉原小学校から日比中学校へいく山道をご存じですか。昔、殺人事件があったような暗くて狭い山道を子どもが歩いて通えますか。常識的ではないので、おかしいところは直さないと、何でもかんでも同じ人数にすれば、平等というのは違うと思います。その地域の特性もあるし、危ない危険な場所もたくさんあるのだから、そういったところを何でも減らして、一つにしてしまおうなんて、そんな考えでは教育とは言えないんじゃないかと思えます。本当に自分の子どもが歩いて通うということを考えて、もう一度考え直してほしいと思います。

事務局：一つ目の適正規模・適正配置のところの、小学校は1学年2学級以上、中学校は1学年3学級以上、これを本市が適正というふうを考えて進めている理由はいろいろありますが、大きな理由としては、クラス替えがあるということ、それが大きな理由の一つとなります。クラス替えがあるということで、子どもたちが人間関係でうまくいかなかったとか、改善しにくいといった状況になったときにクラス替えがあることで新しい学年になったときにいづらか配慮してクラスを決めることが出来る。改めて新年度リセットして再スタートを切ることが可能になるといったところですよ。

あわせて、たくさんの友達がいるというところで、自分と考え方が一緒だとか価値観が一緒とか、気が合うとか、いろいろな友達と出会うことで自分にとって、よりよい人間関係、よりよい友達といった関係が築きやすい、そういう機会が増えると考えています。そういうことで、やはり望ましいのは2学級以上で、クラス替えがあること

が望ましい。

それから中学校につきましても、同様にクラス替えというところ、中学校はなぜ 3 学級なのかというところですが、これは教員の配置人数です。教職員の配置というのは、クラス数によって基準が決められていて、人数が決まっています。1 学年 3 学級以上であれば教職員の数として、9 教科の教員の常勤の教員を配置する。そういった人数確保になるということです。これが 2 学級であると、9 教科全ての教科に教員配置というのが難しいので、非常勤講師であったり、他の学校の教員が転用していたりとか、そういう対応をしているところ。教科指導の充実で考えると、中学校については 3 学級で、教員の配置が重要であると考えています。

教育の質を考えた上での、小学校中学校それぞれ 2 学級以上、3 学級以上になっています。

続きまして、玉野市の教育の質を向上させるというところで、たとえば適正規模を進めることで何が向上するのか。児童生徒数が増えるということで、逆にマイナス面があるのではないかといったところですが、まず最初に申し上げておきますが、少人数がだめだとか、少人数が良い悪い、人数が多ければ多いほどいいとかそういった話ではなく、冒頭に教育長が挨拶で話をしましたが、今の教育、これからの教育、これからの子どもたちが社会を生き抜くために身につけていく力、それをしっかり育成するために、学校教育ではどうあるべきかを考えたときに、多様な他者と関わるのが重要となります。いろいろな人と関わる中で、これから世の中でいろいろな問題が起きたときに、正解のない答えをそれぞれ課題解決していく。そのなかでいろいろな考え方があるんだ、いろんな価値観があるんだってところを、いろいろな人と関わる中で、多様な価値観というものをしっかり触れて、子どもたちが身につけていく。そういうなかで思考力であったり、判断力であったり、表現力、さらには社会に出ていろいろな人と関わる中で人間関係の構築、コミュニケーション能力、そういったいろいろな力を育てていく。育成していく。そのためにある程度の一定規模の集団が必要になってきます。

さらに学習面でいうと、今と昔とでは、ずいぶん授業・教育が変わっています。教員が絶対で一方的に授業をして、授業を進めるのではなく、生徒が主体、友達同士で考え方を教え合ったり、出し合ったり、協働的な学びを今進めているところ。一つの答えをだすのにどういった考え方があるのか。そういったところもしっかり身につけていく。それが今の教育で今の学校での授業です。

そういったところを考えたときに、やはり多様な人と関わる中で、ある一定の規模の集団の中で子どもたちの学びが必要である。そういうことになります。

ですから、集団の中でいろいろな力を身につけるための教育環境を整えて質を上げていく、さらには児童生徒数が増えるということで、学級数が増えた場合、教員数も増えると、学校全体で組織的にいろいろな取り組みが可能になります。

不登校の心配ももちろんあります。これは学校の教員みんなが 1 クラスの人数が 10 人であろうが 20 人であろうが 30 人であろうが、目の前の子どもたちをしっかりと見えています。ただ、それでも非常に人数が多いのと少ないのでは、目の行き届く状況というのは違ってきます。そういうときには支援員であったり、支援体制ができるような取り組みをしています。個に応じた指導を児童生徒の数に限らずしっかりと体制を整えて取り組んでいかなければいけないと進めているところです。

まだまだ説明が足りない部分もあるんですが、子どもたちの学びの充実といったところを考えたうえで適正規模化といったところが必要になっている。さらには教職員が増えることで学校の運営が安定するということもあります。まだたくさんありますが、大きく主な目的、内容としては以上となります。

市長：人口を増やすことを考えないのかということですが、もちろん考えていまして、少子化対策、都市型移住定住ということで、市長就任以来、力をいれてやっております。

特に子育て支援ですね。若い世代が選んで玉野市に住んでもらう、あるいは出て行かないようにしているということで支援策の充実ということを図ろうということで、支援のメニューを増やしていこうという中で、昨年子ども医療費、これは各市町村競ってやっていますが、中学校までのものを高校までに無料にしようということで昨年度からやっております。それから子育て環境はアプリを使って登録とか予約を出来るようにしたり、こどもみらい課という子育て相談の窓口を一本化して子育てしやすい環境を作ろうと、こどもまんなか宣言をいたしましたし、そういうかたちで、子育てしやすい玉野市ということをアピールしていこうと、まだまだ不十分なところもあるかと思いますが、そういうことを売りにしていきたいなと思います。

それから端的によそから引っ張ってくるという移住定住の計画、これも力を入れておまして、以前から移住コンシェルジュという方をおいて、相談とか対応をしているんですが、それに加えて地域おこし協力隊というのを去年から入れまして、そういった方に相談とか支援とかに当たっていただいております、この 8 年でわかっているだけで 200 人以上の方が移住をしております。

そうは言いながらも人口減少が非常に激しくて、毎年 1000 人位の方が人口が減っているという中で、転入転出の点では自然減と社会減と両方ありますよね。自然減はいかんともしがたいところがありますが、社会減の方は 400 人くらいマイナスだったのですが、去年は 100 人台で少し抑制された。その要因についてはもう少し分析が必要なのですが、少しそういう点で落ち着いてきたと、できればここがプラスマイナスゼロにしたいところでは。

産業振興も力を入れているところですが、田井の区画も全部埋まっております、新しいところはないのですが、パワーエックスさんは既存の工場に入っています。その向こうに貯木場だったところがありまして、そこはなんとか埋めて工業地にできないかということは今県や国にプロポしているところでは。少しでも人口を増やすような努力はやっていきたいと思っておりますし、ただそれを見込んで小学校中学校をどうするかというところは、現状ではなかなか難しい面もありますので、そこは現状の人数に付則した形での計画でやらざるを得ないという面があります。

参加者 5：説明ありがとうございました。今の教育はと何度も言われましたが、今の中学校はやっと転換期になったのかと思います。

でも、小学校は違います。10 年も 20 年も前から一斉に講義をするような授業はしておりません。一生懸命子どもたちで考えて、それをみんなの前で発表する、話してやってみて、失敗して直してというようなことをずっとやってきています。他者と関わるといような、30 人だった同級生が 60 人になるというような人数が増えるだろうというふうには聞こえたんですが、でも小学校では縦割りで全校の子どもたちと関わって、120 人でいろんなことをしたり遊んだり話し合ったりということをもう 20 年も 30 年も前からやっています。そうやって一生懸命教育の質を向上させてきているんですが、なのにどうやって教育の質を向上させるのか具体的なことがうすいなと思ってがっかりしてしまいました。

正規の教員の人数を増やせば、学校がよくなるわけでは絶対にありません。確かに支援の方をたくさん入れてくださるのはとてもありがたいです。同級生が宇多津市にいまして、宇多津市も今合併で 4 校が合併したところがあるんですが、そうすると支援員が 500 人の学校に 15 人入っています。玉野市では考えられないですよね。市費で入っているそうです。ちょっと落ち着いてきたので、今年は 11 人に減らされたと言っていましたけど、もしこれを進めるならそういった覚悟も絶対に必要になってきますので、本当にこの質を向上させるために、真摯にたくさんの課題を考えて、たくさんの人で協議して、進めていって欲しいです。何人かだけでしたら意見も広がらないと思います。子どもに人数を増やして考えを増やさせようというのに、この会が何人かだけのものではあ

たら、良くなるはずないと思っています。よろしくお願いします。

事務局：昔からグループ活動といった授業や教育活動やっていました。ただ、今は形が変わって、学習用端末も入り、一人一人の考え方も大切にして表現力がしっかりつくような、口頭では説明しにくいのですが、同じようなことをしていても、目的が違ったり、そういったものが違うということは、ご理解いただきたい。実際、子どもたちの今の授業の様子を見ていただくと少しは様子がわかりいただけるかなと思うのですが、ただ教育の質を上げるためにさらに取り組んでいかなければいけないと思っていますので、しっかり取り組んでまいります。

参加者6：玉野市の特徴として、どこの学校も学校運営協議会というのがあると思うんですが、そちらをもっと活発に動かしていただけたら地域の方の意見を受け止めることができるのではないかと個人的に思っています。

通学路危険なところもあるんだよという意見もありましたが、それは長い間住んでいる地域の人だからこそこわかっている危険性というもあります。

それに学校でどういった教育を行っているかというのは、実際学校で見てもないわからないところもありますよね。学校運営協議会のなかでは、1時間授業を見る時間を作っている学校もありますし、それを協議員の人でしかわかっていないことなので、会も年に数回というのもあると思うんです。どういときにこの会があって、こういう時には来ていただいたらいいですよだったり、そういう方が学校の委員会などで意見をいったらそれを学校へ伝えてくれるよというのがあったり、そういう意見を言えることを伝えていけたらいいのかなと思います。幼稚園の保護者に開いていけたらというご意見があったので、そういうときにも協議会であつたりとか、地域の方とともにいけたらいいのかなと思います。行政・学校・地域、立場が異なりますが、子どものことを大切に思っているというのは同じだと思うんです。

なので、お互いに知り合うということが必要なのかと思います。再編準備委員会というのも、1～2ヶ月に1回行われて、委員会のメンバーの方も限られてしまいますので、こういう方が担当で、この学校・学区だったらこの人に言ったらいいんだよというのをもうちょっとわかりやすくしていただけるとお互い納得して進んでいけるのかなと思いました。

事務局：再編準備委員会につきましてはこれから立ち上げるものですが、いただいたご意見を参考にさせていただきます。

参加者7：先ほどの方も、玉野市の教育の質を向上させると言っていますが、私もそれがとても気になっています。統廃合、適正規模化の必然性というのが、市民に可視化できるようにわかりやすくこうだと伝えていかないと、ストンとこないと思います。今の説明を聞いていると、限られた予算を効率的に使いたいということはわかりました。人数多ければ多様な考えも出るだろうと。

ですが、先ほどから出ているように通学の困難さであるとか、避難地域も実際遠くなるとか、コミュニティの喪失とかたくさん問題が出てくるにもかかわらず、教育の質のためだとおっしゃる。教育の質ということで、先のわからない世の中と言われますが、これは10年くらい前からすでに言われていて、私は岡山市のほうでずいぶん勤めてましたが、協働的な学びとか、主体的な学びとか、私が二十歳くらいの時から研究会でやりましたし、対話的な学びなんて10年以上前からやっています。

だから、玉野市もおそらくやってたはずなんですよ。思考・判断・表現力ってずいぶん前から指導要領に書かれていて、ずいぶん前からやっているんです。そのための手段として対話的であるとか、行動的とか、そういうことを使いながら思考判断表現力を高めていくと思うんです。

だから、今やっているにも関わらず、人数を増やしたいがために教育の質が高く、そんな簡単に質が高くなるかと危惧してしまいます。そんな簡単なもんじゃないだろうと。私、大規模校から小規模校、たくさんの学校勤め

たのですが、少人数でも多様な考えたくさん出ます。授業中たくさん手が上がって発言したいと、グループ学習もたくさん取り入れてましたので、何十年も。学力だって高く、福井県秋田県よりも、私の教えていた子たちは出来ていました。小さな 20 人くらいの学校でもけっこうな学力がつくので、多様な他者は別に生徒だけじゃなくて、書物にはこう出てるよとか大人の考えはこうだよとか、いろいろ照会すればそこでもまれるし、地域の人の声とかも入れることもありましたが、方法だと思っんですよ。

要するに教師集団で対話的な学習、主体的な学習ができるそういう研修を進めることによってこのことは可能なので、だから今もやっていると思っんですよね。玉野の先生たち。

にも関わらず、教育の質を向上させるとは、どういうことかなと。ぴんとこないです。むしろ、私が大規模校に勤めていたときには、いろいろな子どもがいますので、切磋琢磨どころではなくて、授業妨害する子どもがたくさんいます。そういう子をどのようにしていくか、大変なんです。人間関係もいろいろあつたりいじめもあつたり様々。家庭訪問も根限りありましたが、本当に大変なんですよ。一人一人に目が行き届かない。安易に数を合体すれば教育の質が高くなる、そんなものではないと思っんです。むしろ危険なことがいくつかあると思います。不登校の子どもなんかはかわいそうな気がしますよね。ますます学校から遠ざかっていく気がしますよね。なので、大変心配です。

切磋琢磨という言葉も出ていましたけど、昔、附属中学校に勤めていたけど、こういうところでは確かに切磋琢磨です。普通の一般的な大規模校ではなかなかできません。それが岡山市で勤めていた実感です。

だから、そう簡単に安易になつちやつたらいけないなと。ほんとに地域の人がここを合併してくれと、築港の人が宇野にいきたいんだという場合はしたらいいと思っんですが、トップダウンで玉野市全域をするんだというのはおかしいのではないのかと。しかも答申が出たのが 2023 年。適正規模化が文科省から出たのが 2015 年ですよね。にもかかわらず令和 3 年から喫緊の課題として玉野市でやっている。ものすごく違和感感じるんです。遙か前のことを今更なんで玉野でやろうとしているのかと思っんです。むしろもっと少人数で丁寧な、一人一人に行き届いた教育をお金をしっかりかけて大変かもしれないけど、それを残してあげた方が玉野の子どもの幸せにつながるのではないかと思います。残せる学校はできるだけ残してあげた方がいい。私の意見です。

参加者 8 : 学童保育については統合後の学校ということですが、先ほど中学校の部活で帰宅の際の安全性とありましたけど、これについては統合後の学校で児童の安全が確保されるのか、いわゆる帰宅する時とかですね。これは再度ご検討いただきたいと思っんです。

それから、築港小学校と宇野小学校を統合して児童数と学級数でありますが、クラス替えが大事だとさきほど言いましたが、36 人のところにバーがあって、このへんはクラス替えが大事だというなら、もう少し弾力的な運用を考えるべきではないかと思います。

それと、今回は統合していくことでいろんな予算を一般的に考えると統合効果が出て減らせると思っんですが、実際の実額という部分では将来的に減るかもしれないんですが、比率についてそれを維持していくのは、統合効果で減らそうとしているのかというのは明記して欲しいなと。私自身は統合して浮いた予算を施設に使うとか、他の予算に使うとか、そういうふうにするべきではないかと思います。

それから、児童生徒の学習環境の向上のためということですが、先ほどから何が本当に向上するのかということですが、カリキュラムで学校統合とそれを補うという意味でコロナ過の時に在宅学習とあつたと思っんですが、その在宅学習と集合教育とか、そういったところのコンビネーションを考える中で、ユニークな学習というか、今もされてるかもしれないですが、あるんじゃないかと思います。

最後、これも意見ですが、小学校については当然通学というところがあると思っんですが、中学校について

は今も部活とかで出来るっていう話があるのですが、全部同じ学区にして行きたいところにいけると。そういったなかで中学校の特色が出たり、先生もいろいろ切磋琢磨出来るのではないかと思うので、それは通学でいけないという方もおられると思うんですが、中学校については全市同じ学区にして行きたいところにいけるというふうにしたらどうかと思います。

事務局：財政的なところですが、教育委員会としては、財政面について減らすためにやっているつもりは全くないです。正直なところ、バスも含めてそういった費用はかかってきますので、学校の運営経費と合わせて考えると、その年度でいくとそんなに変わらないと考えています。

長期的に見ていくと、40年50年経ってる建物たくさんありますので、大規模改修が必要になっている時期がきています。それにかかってくる費用というのは今後もかかってくるのですが、教育予算を減らすのではなく、そういったところにかかるものがあるのなら、空調の整備であったり、体育館の空調もあるんですが、そういうところもしっかり予算を充てていけるように、教育予算を減らすのではなくて、その中でさらに充実させていけるように施設の方もしていけたらと思っています。

参加者9：1点目は、民間企業の立場としまして、魅力ある玉野市づくりとしまして、なんとかこの玉野市に人口増とならないかということで協力をしているところですが、このままですと予測通りさらなる少子化がまぬがれないところでした。部活動ができないことで、越境入学があるということを知りましたが、さらなる少子化になった段階で今回統合ということを検討していますけども、次の段階の再統合ということもおそらく考えているのではと思うのですが、今回それを一気にしなかった理由、もしくは再度の統合に向けての検討、計画、そういったものがあるのならお伺いしたいのが1点。

もう1点は、ここで統合した後の廃校になった学校の解体計画であったり、もしくは再利用をどのように考えているのかというこの2点をおしえていただきたい。

事務局：まず1点目ですが、今回の計画の中については、実際1学年2学級以上という目標は掲げているのですが、実際にはそうなっていない学校もあります。

なぜそれ以上くっつけなかったかといいますと、それ以上くっつくと通学面でかなりの負担がかかるということがありまして、市全体の配置といったところで、今回この数となっています。

ただ、今回の計画の中でも記載させていただいてますが、たとえば山田中学校と東児中学校の再編については、中長期的な視点で見ますと令和17年度には今の山田中学校と同じ規模となってしまうため、次の段階の再編というのは検討していく必要があるというのはあります。他の学校についても、児童生徒数を見極めながらどういった段階で次の段階が必要になってくるのかわかりませんが、その辺りはしっかり注視していきたいと考えています。

もう一点の廃校になった学校の解体等の跡地利用ですが、現段階では具体的にどうするといったところは決まっていません。学校の空き地の利活用については地域の意向にも配慮したうえで、市全体のまちづくりの計画とか重要政策、法令等の整合性なんかは留意しながら、公の施設として使えるところはないかとか、公共的な事業で使えるところはないかとかは考えて、今後検討していきたいと考えています。また、民間の力も活かしてもらいながら地域の活性化につながる使い方を検討できればと考えています。今も地域に体育館などを開放させてもらっていますが、避難所として体育館を利用したりとかありますが、活用策が決まるまでは引き続き地域での活用ができるように配慮したいと考えております。